

議 長  
確認印

経済常任委員会会議録

1 日 時	開会 平成 30 年 5 月 16 日 9 : 59 閉会 平成 30 年 5 月 16 日 11 : 30
2 場 所	委員会室
3 出席委員	鈴木茂、七宮広樹、藤田一男、割貝寿一、吉田広明、下重義人、鈴木孝則
4 欠席委員	なし
5 出席要求者	なし
6 職務出席者	議長 大縄武夫、議会事務局長 益子和憲、書記 根本雅士
7 説明員	まち振興課長 吉成知温、商工観光係長 鈴木サキ子
8 傍聴人	町議会議員 1 名
9 付議事件	第 1 埴町商工会補助金等について
10 議事の経過	<p>副委員長（七宮広樹）開会 委員長（鈴木 茂）あいさつ 第 1 埴町商工会補助金等について 委員長：まち振興課長に説明を求める。 吉成まち振興課長及び鈴木商工観光係長が資料に基づき説明する。 委員長：質疑はあるか。 委員長：町補助金の活動事業資金報告書に平成 27 年度、28 年度に人件費が入っているが平成 29 年度には入っていない理由は。 まち振興課長：国からの商工会支援事業補助金配分の内容が変わったため、町からの補助ではなくなった。 委員長：青年部はどのような活動をしているのか。 まち振興課長：会員数は現在 29 名で、主な活動としては産業祭、流灯大会、婚活イベント、青年部関係の会議出席などであり、産業祭と流灯大会にウェイトを置いている。婚活イベントについての予算配分はない。婚活の実績は 9 月の白河市白坂の杜で開催された「風とロックフェスティバル」を見に行ったこと。他の活動としては福島での CM 大賞作成に取り組んでいることである。 吉田委員：補助金の組み立てを内部で検討することが必要で、項目ごとにするなど見える補助金とすべきである。事業実績報告の事業内容が毎年コピーで作成されている。 まち振興課長：細かい部分が見えてきていない。補助金を交付する側として詳細な活動が見えるように商工会と協議しながら変えていきたい。 鈴木(孝)委員：矢祭町はやっと 70 万円の補助金を町からもらった、比較すると埴町は多い。実績にあった費用対効果が見えない。埴町の場合は補助金をもらってから考えている。 まち振興課長：次年度以降、青年部・女性部単独の補助事業に対し項目ごとの補助金交付を検討していきたい。 委員長：平成 28 年度まで補助金が職員の給料に充当されている。平成 29 年度以降補助金 850 万円の具体的な成果をはっきり表せるようにしないと町民が納得しないのではないかと。</p>

吉田委員：商工会一職員の話であるが、補助金に頼らないで自主財源での対応を考えていると言っている。商店街も戸閉をしているところが多くなってきている。自主財源をどこから確保できるのか町として指導していくべき。

委員長：どうすれば自主財源が確保できるか。町で指導して対策部会等を考えていってほしい。そのために視察・勉強が必要である。

まち振興課長：商工会は商店の集まりで利益を追求していなかった。今後、高齢者の配食サービスなど新たな部分について町と商工会で検討していきたい。

七宮委員：補助金ありきで、補助金を出しているのに空き店舗が多い。町職員が事務局長をやっていた時代から抜け切れていない。

鈴木(孝)委員：矢祭町の補助金 70～80 万円の内訳はどうか。矢祭は自費でやっている。埴町は行政に頼るようになってきている。意識の改革が必要である。合わせて議員の意識改革も必要である。

藤田委員：埴町商工会の会費は月 2,700 円である。

吉田委員：受益者負担の意識にならないと新しいものが生まれてこない。

委員長：補助金の一律削減を予算で検討が必要ではないか。

鈴木(孝)委員：一律削減には反対である。一生懸命やっている所には多く出すとかメリハリをつけるべき。

吉田委員：天栄村では、商工会で地元米を販売している。同じメニューを続けていては更新されない。何かやりたいのか。新しいことをやっていきたいのか先が見えないと補助金も廃止となることもある。危機感を持つべきである。

委員長：そのほかなければこれで質疑を閉じたい。

(説明員退席)

委員長：今日のまとめを行う。何かあるか。

委員長：なければこれで会議を終わる。

副委員長：閉会

埴町議会委員会条例第 27 条の規定により署名する。

平成 年 月 日

経済常任委員長